

学位授与番号：乙 3 1 5 6 号

氏 名：根木 快

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 28 年 9 月 14 日

学位論文名：

Usefulness of circulating tumor cells after preliminary chemotherapy for prediction of response to further anticancer therapy in patients with initially unresectable metastatic colorectal cancer.

学位論文名（翻訳）：

(切除不能転移性大腸癌患者における末梢血循環大腸癌細胞による化学療法後の効果予測に関する研究)

学位審査委員長：教授 相羽恵介

学位審査委員：教授 馬目佳信 教授 颯川 晋

論 文 要 旨

論文提出者名	根木 快	指導教授名	矢永勝彦
--------	------	-------	------

主 論 文

Usefulness of circulating tumor cells after preliminary chemotherapy for prediction of response to further anticancer therapy in patients with initially unresectable metastatic colorectal cancer.

(切除不能転移性大腸癌患者における末梢血循環大腸癌細胞による化学療法後の効果予測に関する研究)

Neki Kai, Kawahara Hidejiro, Watanabe Kazuhiro, Toyama Yoichi, Akiba Tadashi, Yanaga Katsuhiko.

Anticancer Res. 2013 Apr;33(4):1769-1772.

本研究では、切除不能転移性大腸癌に対する化学療法後の CTCs の測定が、その後の治療方針の決定に有用であるか否かを明確にすることを目的とした。2009年1月から2011年12月の3年間に東京慈恵会医科大学附属柏病院外科で行われた、切除不能転移性大腸癌 KRAS wild-type で、原発巣に対しては D3 郭清が施行された 14 例を対象とし、前向きに化学療法前後で CTCs を測定した。化学療法として SOX (経口抗癌薬 S-1+点滴抗癌薬 oxaliplatin) + 分子標的治療薬 panitumumab を 4 コース (3 ヶ月) 行った。14 例中 10 例 (71%) で化学療法後 CTCs は検出されなかった。これらの 10 例のうち 8 例で化学療法の継続が可能であり、残る 2 例は転移性病変の切除が可能となった。これらの 10 例全てで 1 年以上の生存が可能であった。一方、化学療法後も CTCs が検出された 4 例は、全例が 8 か月以内に癌死した。化学療法後 CTCs が検出されなかった患者の予後は検出された患者に比べ、有意に良好であった ($p < 0.01$)。

したがって化学療法後の CTCs の測定は、その後の癌治療効果予測に有用であると示唆された。